

国際物流フォーラム2012

国際物流の展望と戦略 ～総合特区と西日本の連携～

開催結果概要報告

○概要

円高、欧州危機、さらには国内産業の空洞化の加速といった危機に見舞われている我が国では、国際物流の世界でも、アジアの急成長や業界を取り巻く状況変化等に直面している。こうした中、昨年12月の政府による「総合特区」の指定を踏まえた国際物流の方向性、西日本全体の広域物流のあり方、「国際物流戦略チーム」が今後果たすべき役割等について議論することを目的として、フォーラムを開催する。

○主催：国際物流戦略チーム（（公社）関西経済連合会、国土交通省）

○日時・場所

平成24年3月14日（水） 14：30～17：00
ウェスティンホテル大阪 2階 ローズルーム

○参加者 約220名

○構成

- 開会挨拶 （公社）関西経済連合会 会長 森 詳介
- 基調講演 「総合特区制度に寄せる期待」
内閣官房 地域活性化統合事務局長 和泉 洋人
- 報告 「近畿の国際物流の近況と戦略チームの取組」
黒田 勝彦（神戸大学名誉教授 国際物流戦略チーム 幹事会座長）
「瀬戸内臨海部産業の競争力と防災力の強化に向けて」
戸田 常一（広島大学大学院 社会科学研究所 教授 中国地方国際物流戦略チーム 部会長）
「広域物流がもたらす四国の物流の発展」
土井 健司（香川大学 工学部 教授 四国国際物流戦略チーム 本部会合委員）
- 総合討論 （司会：神戸大学名誉教授 黒田 勝彦）

○総合討論の主な意見

- ・「総合特区」の活用による地域経済の発展のためには、輸出を下支えする国際物流インフラ（国際戦略港湾「阪神港」、関西国際空港）の機能強化とともに、荷物を創る「創荷」という新しい取組が必要。
- ・現在コンテナ輸送に関して釜山港経由が安く設定されているが、日本の港湾がハブ機能を失えば、将来的に値上げに転じる。だからこそ、国際戦略港湾の機能強化が必要であり、スケールメリットを出すための集荷が必要。
- ・阪神港は「国際コンテナ戦略港湾」を更に充実させ、中国は「国際バルク戦略港湾」、四国は「フェリー」というそれぞれ強みを活かした「西日本の連携」を期待。
- ・東南海・南海地震等への対応やコンビナート防災の観点からも広域的な連携を行うべき。
- ・今後も、近畿、中国、四国が連携した取組を効果的に進めるため、連絡会の設置などの体制づくりを行うべき。
- ・「ものづくり」の裏側に「物流」があることを忘れず、消費者、顧客が何を望んでいるかを念頭におくことで、今後の国際物流戦略チームの取組が更に発展することを期待。

<会場全体風景>



約220名が参加

<主催者あいさつ>



森会長による開会挨拶

<基調講演>



和泉事務局長による基調講演

<報告>



黒田先生による報告



戸田先生による報告



土井先生による報告

<総合討論>



総合討論



上村先生からの発言



大阪港埠頭(株)川端社長からの
発言